

潮騒通信「どっこい生きてます！」

11月に開く潮騒フォーラムの意味について

青息吐息ながらも、長かった酷暑の夏をなんとか乗り切ることができました。季節は過ごしやすい秋となり、これからはリカバリーパレード（9月23日、東京・新宿）や鹿嶋まつり（10月20、21日、カシマスタジアム周辺）など秋季イベントへの参加に加え、助成を得て今年1年間取り組んでいる潮騒ファイザープロジェクトが終盤に差し掛かります。忙しさに拍車がかかる時期ですが、こういう時こそ「施設の主役は私たち依存症の当事者であり、日々の地道な回復への取り組みに専念すること」という原点確認が大事だと自分に言い聞かせています。

潮騒ジョブトレーニングセンターでは依存症という困難な病気について、広く世間の皆さまに実情を知っていただくことと本通信（ニュースレター）で情報を発信したり、地域のイベントやお祭り、ボランティア活動などに積極的に参加しています。中でも自分たちの回復状況を広く地域の皆さまに披歴し、薬物・アルコール・ギャンブル等の依存症に理解を深めてもらおうと、毎年取り組んでいるのが施設最大のイベント、公開フォーラムです。今年は11月11日（日）に、昨年と同じ行方市の北浦湖畔の高台にあるレイクエコー（茨城県女性プラザ・県鹿行生涯学習センター）で開きます。内容は前半（午前の部）がファイザープロジェクトのフォーラムです。農業を中心とした職業訓練の成果や就労支援の取り組み、これに参加した入寮者たちの体験談などに加え、専門家の講話を通して就労に向けての大きな課題である生活保護からの脱却についても考え合う予定です。午後は施設公開フォーラムで、横浜や川崎、市原ダルクの友情出演によりエイサーを楽しんでもらい、潮騒メンバーも音楽パフォーマンスを披露する予定です。入寮者のスピーチや毎回楽しみな日本ダルク代表の近藤恒夫さんらによる講演も予定しています。

私たち依存症者は世間に迷惑を掛け、家族を不幸にしてきた否定的な人生を送ってきただけに、バランスのとれた世間付き合いが苦手です。潮騒でも多くの入寮者が、家族から「厄介払い」されたような形になっています。それだけに被害者意識に凝り固まり、歪んだ自尊心が邪魔をして「自分を変える」というプログラム本来の方向に舵を切ることができずにいる仲間が多いのも事実です。ただ、施設では仲間の中にもいるだけでも薬物・アルコール・ギャンブルをストップできていますから、なんとか入寮期間中に自分を変えるきっかけをつかんでほしいと願います。そのためにも施設最大の取り組みである公開フォーラムを成功させることは、入寮者が自信を取り戻す意味から重要です。とはいえ無理をして世間に媚びを売ったり、背伸びして「いい顔」をする必要はありません。主役である私たちのうそ偽りのない回復の姿を謙虚な姿勢で皆さまに訴えたいと思います。できるだけ自然体で生きることこそ、私たちの最良の治療行為なのですから。

（施設長 栗原 豊）

SJTC

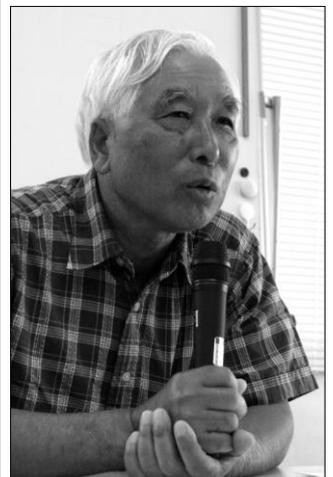
SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

9月号 一部100円

Contents

- P1 潮騒フォーラムの意味
- P2 テレビ局が潮騒を取材
- P3 同取材リポートの続き
- P4 同リポート続き&解説
- P5 青塚農場の開墾準備
- P6 べてるの家視察研修
- P7 パソコン受講者の作品
- P8 桐本先生の講演聞く
- P9 近藤氏インタビュー5
- P10 受刑者からの便り
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金献品



しおさい文芸欄の俳句選者、桐本石見先生の講演会を開きました=8頁に記事

テレビ局の取材に「密着取材」しました

= TBS報道特集が生活保護をテーマに =

TBSテレビで毎週土曜日午後5時30分から放送されている報道番組「報道特集」の取材チームが7～9月、断続的ながら鹿嶋市の潮騒ジョブトレーニングセンターに来所し、多角的な視点で潮騒の活動を取材しました。社会的な関心を集めている生活保護制度について、恩恵を受けている現場の状況や受給者の生活と意見などを把握するための取材です。潮騒でも多くの入寮者が生保受給者となっていることに加え、「生保受給者から納税者へ」をスローガンにファイザープロジェクトに取り組んでいることから、趣旨を踏まえて協力しました。

◆朝のミーティングに同席

取材チームは8月下旬、毎朝行われる施設内ミーティングに同席し、入寮者らの告白に耳を傾けました。ミーティングでは「12のステップ」を仲間同士で読み合い、それぞれが過去の体験を語り合いながら薬物やアルコールなどに依存しない生き方を目指しています。入寮者らは薬物やアルコールなどに依存し、犯罪などの過ちを犯した過去を振り返りつつ、「ここでの経験をもとに、自立した生活をするのが目標」「社会に出たらここでの教えを守っていきたい」「過去の自分がメチャメチャだったことが分かった」などと述べ合いました。その様子を金平茂紀キャスターはじめTBS取材チームが真剣な表情で見入っていました。



栗原施設長が「これまで7回刑務所に入った」と過去を語った上で、「ダルクに入るには入寮費が必要だが、当時は行政がダルクへの認知度が低く、生活保護をなかなか付けてくれなかった。ようやくケンカ腰で生活保護を認めてくれたが、生活保護を付けてもらわなければ、過去の生き方をさらけ出して第二の人生を送れなかった」と語り、ダルク入寮を支える生活保護が当初は認められずに苦労したことを振り返りました。

◆ダルクと生活保護に助けられ

その上で出所者の多くが、刑務所から出所する際の支度金が2～3万円程度しかなく、受け入れ先が無いために“悪い仲間”のところに舞い戻ってしまう現実や同じ過ちを繰り返してしまう悪循環にも言及。「それを断ち切ったのは生活保護制度。経済的な不安がなくなり、ダルクの生活で食と住の大事なところは守られた。そこから『薬物をやめなければいけない』とい

う動機付けが生まれ、断ち切ることができた」と述べ、ダルクと生活保護によって、薬物と刑務所の悪循環を断ち切ることができたことを訴えました。

ダルクでの生活で「力は正義」という“反社会的な世界観”から脱却し「謙虚さが身に付いた」と述べた上で、「生活保護が切れるまでには2年半かかった。そこから職員になり、施設を持てた。人間性の回復ができるようになった」と回復の歩みを振り返りました。

◆入所者の部屋を訪問

金平キャスターたちTBS取材チームは、施設内の入寮者の部屋も取材しました。取材に応じたヤマさんは、複雑な家庭環境などを打ち明けた上で、「自分の居場所はここしかない」と明言。質問が生活保護に及ぶと、「本当だったら働きたい。働いて給料をもらって、その金で入寮費を払いたいが、今はできない。でも、生活保護に甘んじているわけではない」。仕事への意欲があるにもかかわらず、依存症の回復途上で働けない現状を訴えました。「一刻も早く生活保護を切って自立したいし、嫁さんをもらっていい家庭を作りたい」と将来への希望を見せました。

また過去に様々な施設を経験したことにも触れ、「ここ潮騒には安らぎと居場所がある。自分がガキの頃入った養護施設ではいじめがあった。寝小便が小6まで止まらなかった。中学の頃から『自分が変わらなければ』と思った。刑務所でも自分からしゃべらないと仲間の輪に入れてもらえなかった」との体験も披露。「(栗原)施設長の存在は大きい。どんな人間でも受け入れてくれる。自分はそこが足りない。でも、最近ミーティングの場で言ってるけど、『すべてのことに感謝できるようになった』と、自分がそういう風に

変わった。とにかく何でもいいから感謝する」と、自分自身が変わったことを語りました。



入寮者らと談笑するTBS「報道特集」の金平茂紀キャスター(右から2人目)

◆午後からはソフトボール大会

午後からは近所の野球場で健康づくりを目的とした潮騒ソフトボール大会が行われ、TBSの取材チームはその様子も取材しました。ソフトボール大会は入寮者がA・Bの2チームに分かれての対抗試合で、白熱した試合展開となりました。ソフトボール大会の目的は「ただ部屋の中にいるだけ」でなく、ソフトボールをして仲間意識を高めることにあります。「もうダメだ」と訴えた人が3塁を回っているなど、達成感を味わうことができるのも目的の一つです。栗原施設長は「ソフトボール大会に出てこられない人もいるが、出てこられる人は回復が早いと思う」と述べ、ソフトボールに参加したオカさんは「気持ちいい汗をかいて、チームの気持ちが一つになる。そういう意識を持つのが大事」と試合の感想を語りました。

◆風呂や夕食準備なども取材

さらにTBS取材チームは、本部施設の入浴の様子や夕食の準備など日常の風景も取材しました。風呂は井戸水を使用しているため水道の断水の影響を受けないことから、東日本大震災の際には一般市民にも開放され、コミュニティFM「FMかしま」で告知されるなど、震災支援に一役買っています。浴室内では、過去の生き方を象徴する“刺青(いれずみ)姿”の人もいますが、入所者同士が体を洗ってあげたりするなど文字通り「裸の付き合い」が見られました。

食堂の厨房では、調理師経験のある入所者たちが夕食の支度をしており、この日はサンマの焼き魚、きんぴらごぼう、コロッケなどが食卓に並び、調理の様子から食堂での食事の様子までをテレビカメラに収めていました。

◆金平キャスターのインタビュー

合間を縫って栗原施設長は金平キャスターのインタビューに応じ、ダルクや潮騒JTCの取り組み、薬物・アルコール中毒の本当の怖さ、依存症者への「居場所」の必要性などを強く訴えました。

栗原施設長は「生活保護に頼ってしまう人」に関する質問に対し「そう見られがちだが、そこにあぐらをかいている人はいないと信じたい。入寮してくる人たちは『薬物・アルコールから脱却したい』と切実に願っている。生活保護に安住して『ここにいれば三食が保障され、雨露をしのげる』という人たちは施設にいる根拠を見いだせなくなる」と述べました。

ただ、依存症の回復はとても時間がかかり長い道のりなので、「長期入寮で生保頼りに見えてしまうジレンマを抱えている」とも指摘。「施設生活が長くなると、本人はそうなりたくないのに“施設型人間”に陥るマイナス面も否定できない。それが楽で当たり前になり、怠惰な生活に流れる」「すると施設が本来目指す社会復帰への取り組みが後手に回り、次第に就労意欲が減衰し、自立への一歩が踏み出せなくなる」と述べて、生活保護の持つ背反面にも言及しました。

それだけに、潮騒が今年1年かけて取り組んでいるファイザープロジェクトに期待を寄せ、「来年度も継続助成が受けられるようにしたい」と語りました。このプロジェクトが目的とする、地域における就労支援の充実とネットワーク化に向け、社会に対して開いていく方針については「社会の人に受け入れてもらわなければ、ここから巣立っていく人たちが、行くところが無い。できるだけ社会の人と交流していきたい」と語りました。



建物の外側から夕食の風景を撮る取材チームのカメラマン

◆潮騒リカバリーホームにも取材

その後、TBS取材チームは中地区にある「潮騒リカバリーホーム」も取材し、入寮者らに話を聞きました。「3カ月前に入所した」というある入寮者は、複

雑な家庭事情を打ち明けながら、服役前にもらった栗原施設長からの手紙について語り「行くあてが無かったら、潮騒に行こうかなと思った」と述べ、「最初は半信半疑。スリップしても仕方ないと思ったのが、回復している人を見ると、『回復できるんだ』と思うようになるから不思議だ」と話しました。「将来に対する希望は？」との質問には「覚せい剤をやめる前提で目標を立てている。すると、やってみたいことがたくさん出てくる」との前向きな姿勢を示していました。

「潮騒に来て良かったですか」との質問に、「潮騒に来て良かった。本当に助かってます」と応じた上で、兄弟からの手紙には「生活が落ち着いたら、一緒に食事を食べよう」と返事があったことを告白しました。

生活保護に関する質問には「生活保護を受けているのに、(生活自立に向け)積極的に動いていないと申し訳ない」と答えるとともに、「働いている人のおかげで食べさせてもらっているのを見ると、健康な体で『覚せい剤をやるかやらないか』の不安だけでもらうのは、正直気が引ける」と、複雑な思いをのぞかせていました。

※今回取材したTBS「報道特集」の放送日は9月22日と決まりましたので、可能ならば視聴してください。潮騒JTCでは入寮者のプライバシー保護に留意しながら、潮騒の活動の在り方や施設運営の方針を理解した上でのメディア取材に対しては、可能な限り受け入れています。

「自立して社会復帰したい」の声が多数

【解説】TBS取材チームに同行して入所者の声を聞いた限りでは、多くの入寮者が生活保護受給に感謝しつつも、「早く生活保護から抜け出して働きたい」という前向きな心情が感じられました。生活保護については、先に一部お笑いタレントが「扶養能力があるのかかわらず、母親を扶養せずに生活保護を受給させた」事例をきっかけに、不正受給が問題視されていますが、生活保護全体に不正受給が占める割合は、金額ベースで0.3%、人数ベースで1.5%程度に過ぎず、残りの約98%は適正な受給と言えます。にもかかわらず生活保護受給者を敵視する「生活保護バッシング」がやまないのは、「日本のGDP(国内総生産)に関与しないヤツは『社会のお荷物。ごくつぶし』」という考えが背景にあるものと考えられます。この考えは失業者、ニート、引きこもり、東日本大震災の津波で生活手段や住居を失った被災者や、福島第一原発事故で故郷を追われた被災者にも適用され、バッシングの材料にされています。しかし、安倍晋三元首相が提唱した「再チャレンジ」の考え方言えば、潮騒の仲間たちは生活保護を元手に「再チャレンジ」の真ただ中にもいます。彼らから生活保護を奪うことは、社会復帰に向けた「再チャレンジ」のチャンスを真っ向から否定するものです。その意味で今回のTBSの取材は、潮騒にとって大いに意義あるものと期待します。(崎山)



TBS「報道特集」取材班が潮騒JTCを精力的に取材



「潮騒青塚農場」開墾準備始まる

…ファイザー助成継続に向け下準備へ…

鹿嶋市青塚地内にある荒れ地を農場にする「潮騒青塚農場」の開墾プロジェクトの基礎調査とこれに向けた下準備が、9月7日から始まりました。この農場は豚舎、旧堆肥舎（現在は倉庫）、ビニールハウス3棟込みで約4500平方メートル（うちビニールハウス分約1000平方メートル）の広さがあり、建物とビニールハウス以外は草などが生い茂るままになっていました。

今年、潮騒ではファイザープログラム助成事業で、薬物・アルコール・ギャンブル等依存症者の就労支援と地域における

受け皿づくりを目指して、独自の農業プロジェクトに取り組んでいます。次年度もファイザーの継続助成を受けようと計画を練っていますが、2年目の活動の中心に位置づける予定なのが「潮騒青塚農場」です。

この日の作業は、午前9時ごろから炎天下の中で入所者たちによる開墾に向けた準備作業が始まり、草刈り機で丈の高い草を刈り始めてから、ユンボで一気に下草を取り除き、穴を掘って草を埋めたりなどの作業が行われました。これまで開墾などの作業に取り組んできたこともあって、作業慣れしている様子うかがえました。

とりわけ、ユンボを操作していたケンボウさんは、かつては工場でユンボの修理などを行っていた経験があり、その際に「(バケット交換など) ちょっと動かすことをしていた」と、ユンボ操作もしていた経験があったという

ことです。

4月に行った鹿嶋市猿田での開墾作業の時と比べてユンボ操作が上達しており、ケンボウさんは「動かすのは難しい」としながらも「前働いていたときの勘を思い出した」と話してくれました。

このように、一部の入所者たちは、以前はユンボなどの建設機械を使っていた人たちが多く、職業訓練でユンボなどを実際に操作してみると、「使っているうちに(ユンボの)感覚を思い出す。上手くなる」という声が聞かれます。

農場の入口には「潮騒青塚農場」の看板が設置され、栗原施設長は「とりあえず整地して、ゆくゆくは豚舎を修繕してブタやニワトリを飼う予定」との見通しを示しました。

土地を提供した根崎彰さんの妻の実千代さんは「空いている遊休農地を使って(潮騒と)共同で農場を経営し、みんなと一緒にやっていきたい」と語りました。午後にはTBSテレビ「報道特集」の取材チームも来て、作業の様子などを撮影していました。



×モ＝潮騒JTCは開設当初から過去に仕事経験のあるアルコール依存症者が多く、社会復帰・就労支援に向けた独自の仕事プログラムに取り組んでいます。しかし、ノウハウが限られ、地域支援も課題になっていることから、新規選定を受けたファイザープログラムで課題克服を狙い、主に農業に特化した就労支援のプログラムの開発と地域ネットワークの形成を進めています。

北海道浦河町「べてるの家」視察研修の報告

●精神障害をかかえた当事者の地域活動拠点

期待と不安を抱きながら8月下旬に、北海道浦河町にある「べてるの家」にスタッフの仲間と2人で視察研修に行ってきました。新千歳空港から車で約4時間ほどの道のりで、浦河町は日高山脈の丘陵地と太平洋に面した自然豊かな景観が広がり、競走馬育成の牧場と良質な日高コンブが特産という人口1万4千の小さな町ですが、べてるの家は街づくりに貢献するなど、独自の存在感でこの町に溶け込んでいます。

べてるの家は1984年に創設された統合失調症など精神障害をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人を核に小規模授産施設やグループホーム、有限会社福祉ショップなどがあり、総体として「べてる」と呼ばれています。そこで暮らす当事者にとっては、生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を持ち、100人以上の当事者が地域で暮らしています。

●「三度の飯よりミーティング」が合言葉

べてるの家では、病気が重くなったり、生活や活動に支障が出てくることを、ごく普通のこととして捉え、驚いたり、嫌がったりしない。あるがままをそのまま受け入れてしまう、そんな生き方が「べてる流」としてケアに関係する人たちから注目を浴び、全国各地から大勢の人たちが研修に訪れています。

「三度の飯よりミーティング」というように、ことあるごとにメンバー同士で集まり病気や共同生活について会議をしています。当事者研究が盛んで、自分の病気にオリジナルの病名をつけて毎日の経過をまとめ、報告するのが定例化しているようで、統合失調症の場合、幻聴が症状として現れますが、この幻聴の声を主として「幻聴さん」と呼び、尊重することで、幻聴の内容が改善した、などの報告がなされています。

ほかにも「安心してサボれる職場づくり」「自分でつけよう自分の病気」「手を動かすより口を動かせ」など世間の障害者観をくつがえすスローガンを掲げ、そのユニ-

クな活動は同じ当事者活動に力を入れる立場からも潮騒JTCにとっても大いに参考になるものです。今回の視察研修は、潮騒ファイザープロジェクトの年間計画に位置付けられ、職業訓練や就労支援活動に視点を置いて勉強する予定でしたが、せっかくの機会なので施設最大のイベント「べてる祭り」の前夜祭から参加しました。

べてるにかかわる人たちの話はとても興味深く、この人たちがいるからべてるが成り立っているのか、と改めて思いました。本番の祭りは、とにかく「楽しい」という言葉に集約されるイベントでした。中でも幻聴・妄想大会はとても個性的で、頭で分かろうとするのではなく、観て「感じる」ものと言えます。自分の中にある様々な感情に直接訴えるもので、人間の持つ「直感」をとても

大事にしているようにも思えました。

●祭りテーマ「降りていく生き方」に生きるヒント

中でも金八先生役で知られるゲストの武田鉄矢さんの話はとても興味深く、「言葉を大切に話す」人なんだという印象を持ちました。最後は歌って、

笑って、感動がある祭りでした。翌日の「THANKS HORSE DAYS」では、ホースセラピーや障害者と馬の優しさなど初めて聞く話ばかりで、戦争のために使われていた「軍馬」が今では人間を癒す「存在」になっていることに感動しました。最終日のべてる研修は当事者研究で、べてる独自の「自己病名」など不思議な感じでした。みんなの話を聞いていると、「病気を受け入れ、それを伝えていく」というものを感じ、「12ステップ」と同じようなことをやっているのだと気づきました。

べてる祭りのテーマである「降りていく生き方」を通してべてるの仲間たちと触れ合い、みんなが生き生きとしている姿に感動を覚えました。辛いことや問題はあるとしても「降りていく生き方」は、とてもいい響きを持つ言葉です。登るだけでは遭難、降りてみて、両方やってみて、初めて、登るとのことなんだと気づかせてもらいました。ぜひたくですが、また来年も行きたいと思いました。(ヒトシ)



潮騒ファイザープロジェクトの職業訓練として、1年を通して取り組んでいるパソコン研修が人気です。7月からは講師を交代して実施していますが、前期分を受講した入寮者の主な作品を選んで掲載します。

パソコン教室を振り返って～就職就労支援としてのパソコン研修教室(前期)が終了しました。週1回の教室でしたが各自の習得スピードは目を見張るものがありました。特にキーボード配列の熟知と文字入力の体得は地道で常に日々の練習あるのみですし、デジタルの恩恵として画像加工にもチャレンジしていただきましたが、ワープロソフトを始め

表計算ソフトにおいても「文字や画像の配置、フォントの種類や大きさを整えるだけでイメージが随分と様変わる」という基本を、終了作品からも十分にマスターされていると思います。

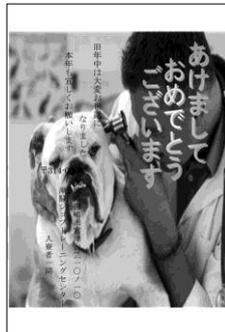
そのことから参加していただいた皆様は、どなたも努力に値する習得をされたと感じています。一般の人々に経験できない依存症者だからこその様々な

人生経験は、ある意味に於いて貴重な体験者でもあります。自らが経験した方々の強みであると言っても過言ではないでしょう。今回の体験が少しでも皆様の有意義で価値のあったことと信じ、期間中に裏方で支えて頂いた関係者と出席された参加者各位に改めて深く御礼申し上げます。ありがとうございました。(佐藤修)

あけましておめでとうございます
 本年もよろしくお祈りします
 平成25年 元旦



〒123-4567
 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 鹿島 太郎



暑中お見舞い 申し上げます



〒123-4567
 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 鹿島 太郎

卒業おめでとうございませう
 後の生活でこの思い出を



暑中お見舞い 申し上げます

今年も、猛暑が続きます。暑さに負けず、共に乗り越えましょう。

〒814-0009

あけましておめでとうございます
 本年もよろしくお祈りします
 平成二十五年 元旦

〒123-4567
 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 鹿島 太郎

暑中お見舞い申し上げます



パースデーミーティング

7月20日(日) 鹿嶋市潮騒センターにて開催されたパースデーミーティングの様子です。参加者から寄せられたメッセージや、当日の様子を写真で紹介いたします。



明けましておめでとうございます
 今年も宜しくお祈り致します



鹿嶋市宮津台 210-10
 潮騒ジョブトレーニングセンター
 のり

ステップワゴン点検のお願い

鹿嶋スタッフ宛 山崎メジャー

検定の件 出張で検定中の車(ステップワゴン) 電話番号 090-785-8460
 ※出張検定の料金は、出張費は別にお知らせいたします。

- 1.フロントガラス磨き
 1回500円前後の料金です。一部5,000円前後の料金がかかります。交換した方が安全です。しじり交換するにも1000円前後です。一度でも交換した方が安全です。
- 2.タイヤ調整
 4車線走行が安全です。安全(車検合格)には必要です。
- 3.フロントワイパー交換
 ガラス磨きの為、必ず交換。
- 4.車検対応点検
 点検対応の点検を行います。たたくと点検は済みます。(点検は点検員が実施します)
- 5.エンジンルーム スチームクリーニング
 パワースプレー洗浄を行います。(点検前には点検員が実施します)

85-16
 85-16
 85-16



新年明けましておめでとうございます

今年も宜しくお祈りします

平成25年元旦

〒123-4567
 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 鹿島 太郎

暑中お見舞い申し上げます
 暑さ厳しき折りお体大切に
 夏の暑さにフルスイング



鹿嶋市宮津台 210-10
 潮騒ジョブトレーニングセンター

●俳句選者の桐本先生を講師に俳句の基礎を学ぶ

潮騒JTCはこのほど、本通信しおさい文芸コーナーで俳句選者を務めて頂いている桐本石見先生(本名、博昭氏)に神栖市在住の俳句選者として、俳句の基礎を学ぶ初めての学習会を鹿嶋市大野まちづくり市民センターで開きました。潮騒では、俳句づくりベテランの栗原施設長が俳句の面白さを説き、入寮者に俳句を推奨しています。回復のためのプログラムとしても取り組みたい考えで、定期的な句会を開くことは栗原施設長の念願でもあります。今後、定期的に桐本先生を囲んで潮騒俳句会を予定しています。

桐本先生は昭和十七年、島根県江津市生まれで長く住友金属に勤務されました。その俳歴は長く、若くして読売俳壇に投句されて才能を開花され、杉句会(森澄雄氏)やかたばみ句会(森田公司氏)の同人となり、その後は神栖俳句会の会長を経て現在は同講師、指導者としても力量を発揮。句集に「雑木山」「かずさ」があります。講演会では和歌、連歌を通じて俳諧、俳句となった歴史や十七文字で山川草木とその中に生きる人を詠むこと、時候・天文・生活・行事・動植物に目配りして、物事への感動を5・7・5で組み立て、必ず季語を入れて詠むなど俳句の基礎を分かり易く解説してくれました。

桐本先生は「俳句は日本人の感性やリズムによく合っており、メモ用紙とボールペンがあれば誰でもできます。3年ぐらいやると面白さが分かってきます。生きる目標にもなるので、ぜひ潮騒の皆さんもチャレンジしてください。しおさい文芸では栗原施設長はもろろん、北海道の章三郎さんもレベルが高いです」と評価。栗原施設長は「桐本先生には毎回、素晴らしい解説をして頂き、作品の理解が深まります。俳句は邪魔なものを排し、本当に必要なもの、大事なものをありのままに詠みますが、私たちも虚飾を排してありのままの自分を受け入れることが回復につながるわけで、共通点があります。どうか俳句に親しんで」と結びました。下段に写真。



桐本石見先生を招いて入寮者が俳句の基礎知識を学びました

＝インフォメーション＝

潮騒ブルース (潮騒の唄)

- 1、 沖に浮かぶは 白い船
 おいらの夢も 乗せてくれ
 高波 荒波 覚悟して
 人生航路 いま船出
 ここはトレセン
 潮騒の丘
- 2、 過去を活かし 花咲かす
 どっこい今を 生きている
 どん底知ってる 根は強い
 花咲け実のれ これからだ
 ここはトレセン
 潮騒仲間
- 3、 窓を開ければ 鹿島灘
 仲間がいるさ 分かり合う
 なぐさめ励まし 助け合い
 今日一日が 明日となる
 ここはトレセン
 潮騒ブルース (※または「潮騒の唄」)

※潮騒支援者で、茨城町の澗沼湖畔に住む自由詩人の白田美鶴さんが、地元での支援者である石津信子さんが作詞してくれた「潮騒ブルース」の原詩を活かしながら、メロディーに乗せやすいよう文字数を合わせるなどして、手を入れてくれました。

9月誕生日の仲間たち



9月誕生日の仲間です。左からオカ、タカ、トウ、ベガの皆さん

近藤恒夫氏インタビュー「薬物依存と回復の権利」VOL5

僕らにとって反面教師になる存在がアディクションの世界には実際にいる

近藤 繰り返すけど、もし僕にダルクの回復プログラムがなければ、ダルクの活動の目標が、今苦しんでいる薬物依存者を手助けすることではなく、それらの人々を商売にするようになりかねなかったと思う。すると、それは止まらなくなる。やめられないよ、気持ちいいからね。やり方によっては事業としてどんどん拡大していくから。うまくやれば今問題となっているけど、貧困ビジネスとして大きな利益を上げることができる。この国では、そういう意味で僕らにとっては反面教師になる存在がアディクションの世界に実際にいるんだよ。回復者というより、アディクションを貧困ビジネスにしているような存在がね。

—アディクション問題を商売にする人たちがいるとして、そういう人たちには倫理的な追い目というか、後ろめたさはないんですかね。

近藤 ないんだろうな、回復者じゃないから。むしろ社会のためになっていると思っているのかもしれない。うわさでは6億円も貯めているのもいるらしい。アルコール依存症者を相手にしてね。うまく転がして不動産をあちこちに持っている。そのやり方は、とにかく施設の入所者に一切金を渡さない。全部施設側で入所者のお金を管理するシステムなんだ。

初めはアルコール依存症だけだったが、その後認知症なんかの高齢者も受け入れてね。ああいう人は年金があるんだよ。中には2カ月に1度80万円くらい入る人たちもいるよ。そういうお金持ちの高齢者たちが何人も集まって来るわけだから、それは大きいよ。おいしいお客さんだな。つもり積もって巨額になり、あちこちにビルを増やしているという話だよ。

—それって凄いですね。悪徳商法じゃないだろうけど、うまく行政の盲点をつけば依存症も金儲けビジネスになるんですね。

近藤 生活保護でも同じやり方なんだろう。普通はその日に使う分としてダルクなんかでは一日千円程度を本人に渡すわけだけど、そこは小遣いを献金？で吸い上げる運営スタイルなんだな。だから一銭も入所者本人の手には渡らない。そうすると結局のところ、スリップしようがないんだ。薬物もアルコールも買え

ないわけだから。とにかく酒を飲まない、という徹底した姿勢だからね。

—そういう形でうまく施設を転がせば、あちこちで金儲けができる。そうすると5、6千万円の建物なんかもばあっと買えちゃうんだな。だけど、そんな施設だったら当然ながら入所者は出て行くわな。根本の依存症が少しも治癒されていないわけだから。そうした強制的な断薬、断酒環境では自己改善の動機付けがないから、施設を出ていけば簡単にスリップしてしまう。で、そういうことはやろうと思えばできるんだよ。

—もはや当事者主義の活動じゃないですね。単なる経営主義、入所者が主役じゃなくなる。生活保護の公金(税金)をうまくプールする依存症ビジネス？

近藤 だから彼らの活動そのものは、本来の目的からどんどん外れていく。そして施設運営も孤立していく。だから政治力を使ったりしてだろうけど、アルコールに問題がありそうな人たちを40人も50人も大挙して役所に引き連れて、生活保護を受けさせようとする。それだって人権でしょう。安易に批判できないよ。日本ではだれでも国民の権利として、生保によって最低限の生活を営むことが憲法で保障されているからね。それに沿って、「俺は正しいことやっているんだから」という主張でしょう。生保を受ける方だって「俺たち困っているんだから、国が面倒みて当たり前だろう」という意識の流れになっている。そういう権利意識がいつの間にか、世の中に蔓延するようになった。依存症の人たちも「俺たちだって生保をもらって当たり前だ！」「同じ国民なんだから当然の権利だ」と。

—そうすると権利意識が目覚めた、よくある市民運動みたいになるのかな。ダルク25周年フォーラムで、近藤さんは自戒を込めて、あえて「権利の回復」ではなく「回復の権利」を掲げましたよね。

近藤 ほかほともかく、僕たちは自分たちの権利に対しては謙虚じゃなければならない。一步間違うと、怖いよ。いつの間にか開き直って、病気についての内省がなくなるから。自分たちの病気が税金のおこぼれをもらう材料のようになってしまう。(次号に続く)

受刑者のみなさんからの手紙～「潮騒通信」を読んで～

■8度目の収容生活でも仮釈放の恩恵に

私がこうして8度目の収容生活にもかかわらず、仮釈放の恩恵にあずかれるのも、栗原さんが率いる潮騒JTCに帰ることになっているからだと思っています。こんな私の身元引受人になってくださった栗原さんに、心より感謝しております。釈放後は潮騒の規律とプログラムをきっちり順守して、依存症とうまく向き合い断薬の日々を終生続けることを第1の目標として努力していきます。毎月欠かさず送っていただいている潮騒通信をとっても楽しみにしており、一字一句あます所なく読み込んでおります。
(茨城県・NK)

■栗原さんの手紙を読み直し涙が出た

栗原さんからの手紙を拝見して、潮騒通信や回復証言冊子を読み直しました。なぜか分かりませんが、クスリに手を出していない昔の自分を思い出し、涙が出ました。その涙がどのような涙なのか、自分でも分かりませんが、とにかく泣きました。私には今クスリをやめる動機というか意志はありますが、薬物依存症に対する考え方、自覚はまだまだ足りないようです。ありのままの自分を受け入れるとはどういうことなのか、本当に自分は変われるのだろうか、とまだまだ分からないことが多く、自分に対する不安や焦りみたいなものを感じてしまいます。でも、一緒に回復に向けて歩んでくれる人がいることは、人生回復のチャンスでもあるので本当に心強いです。まだ回復のためのプログラムに参加した訳ではありませんが、薬物依存症という困難で厄介な病気の怖さを過信せず、素直になって、まずは私も今から「今日一日」やめ続ける気持ちを持ちたいと思います。回復まで、どんなに時間がかかろうとも頑張ります。
(東京都・HM)

■薬物依存症から抜け出し周囲に償いたい

一昨年の夏には風邪をこじらせて肺炎になり、3週間ほど入院しましたが、このように刑務所で病気になると本当に不安になります。私は年も年ですし、無理を重ねた体なので、ここから生きて戻れるだろうか？ と真剣に考えます。それなのに体調が良くなると、あと15年や20年は頑張れる気持ちになるから不思議です。私のこれまでの人生は、自分だけが覚せい剤に溺れるのではなく、自分の身の周りの者にまで影響を及ぼしてしまったことに大

きな罪があると思います。その償いには私自身が薬物依存症から抜け出し、影響を及ぼしてしまった者たちを平安に導いてやれるような生き方をして見せることしかないような気がします。残りの人生、あと何年頑張れるか分かりませんが、栗原施設長にお世話になりながら回復へと導いていただき、正しい生き方ができるようになりたいと、心から願っています。
(北海道・YT)

■どうすれば初心を継続できるのか悩む

このたび身元引受人の許可が下りました。現在、所内で落ち着いた生活を送っていますが、どうしても初心を忘れそうになってしまいます。薬物を断とうと考えていたのが、「今度はうまく使おう」「儲けよう」などと考えている自分がいます。自分で自分のことが嫌になる時があります。「本当にこのような気持ちでやめられるのか?」「どうすれば初心の気持ちを継続することができるのか」とよく考えます。社会でさんざん嫌な思いをしてきたのに!…、です。もう失う物(者)なんて無いはずなのに、いつも日々の生活に流されてバカなことを考えている自分に気づきます。最近は朝早くに目覚めることが日課になっており、同囚から「いつ眠っているの?」などと聞かれますが、この時にいろいろと考えています。眠剤を止めて約半年が過ぎ、なんとかなりました。今では飲みたいとも思っていません。アレルギーで医務回診時にもらうレスタミンも週に1回ほどしか飲みません。かゆみも我慢しているくらいです。人は変われば変わるものですね。
(北海道 I・K)

■仮釈放の可能性が高く身元引受人になって

(近く控訴審判決の言い渡しがあり)できれば執行猶予で社会に出て、そのまま潮騒JTCに入寮し、皆さんと一緒に回復の道を行って行きたいのですが、こればかりは裁判官の判決次第ですので、懲役となった場合のことを今は考えています。私が懲役となった場合、恐らく1年か1年ちょっとで仮釈放がもらえる可能性が高く、もし仮釈放がもらえた時は、栗原さんに私の身元引受人になってもらい、施設への入寮をお願いできませんでしょうか。厚かましいお願いで恐縮ですが、もし可能であれば私も心強く、今後のことに対する不安も軽くなります。どうか宜しくお願いします。
(東京都・HM)

しおさい文芸

選者 桐本石見



法廷の礼の起立や秋の声

潮騒・豊

法廷は厳肅な場所で起立し礼をし、裁判を開始する。その起立の声を秋の声と感じるのも詩心と云うべきであろう。秋は空気も澄み遠くの物音も人や風の音も良く聞えるが、俳句では秋の声に特別な寂寥(せきりょう)を思い、裁判と云う人の世の哀れも思う。

月のぼる力いかほどあればよし

潮騒・豊

月も日も事実は昇る訳ではないが、地球から眺めると昇る様に見える。これも詩心と云うべきで、秋の満月を鹿島灘などから見るとまさしくそう思う。ことに春の月は色からも重く感じる。「紺緋春月重くいでしかな」(飯田龍太)を思う句です。

眠りつき自我の向こうにたどりつく自我なき世界の夢のあと先
快楽を求めて彷徨(さまよ)う注射器の中に奪わる私の人生
善悪の彼岸にありし我が病い不治の病いを法に問いたる

(獄中歌人 若子四季人||なす・しきと||)

絵葉書を繰り返し読む残暑かな

北海道・章三郎

残暑見舞いか、あるいは旅の絵葉書か、何れにしても葉書の文は短い。それを繰り返し読むところに一抹の哀れを思う。若い日の恋文ならば数行でも思いを巡らすのだが、句の作者もそんな思いで葉書を読んでいるのかも。

盆の夜や親しき友の居ることく

北海道・章三郎

原句を少し変えましたが、これで明確に盆の夜を一人です。過ぎ、月明かりにも昔に親しくした友人を思う句になります。「盆の夜」を「盆の月」としても景の見える句になります。盆は故人を含めて人を懐かしく偲ぶものでもあります。



Information

行事予定 (9月中旬～10月下旬)

- 9月22日 広島ダルクフォーラム
TBS「報道特集」が潮騒を報道
- 23日 第3回リカバリーパレード「回復の祭典」
- 24日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
潮騒入寮者9月誕生会
- 29日 北関東薬物関連問題連絡会、第2回潮騒俳句会
- 30日 潮騒アディクション問題セミナー
- 10月9日 世田谷区民生委員視察研修来所
船橋北病院看護師研修来所
- 13～14日 NA北関東エリアギャザリング
- 14日 秋元病院メッセージ (20日も)
- 20～21日 平成24年(第22回)鹿嶋まつり
- 27日 仙台地裁での裁判に情状証人出廷

献金・献品を頂いた方々 (7月中旬～8月中旬)

- | | |
|----------|------------|
| ▼献金を戴いた方 | ▼献品を戴いた方 |
| 起山 眞美 様 | 根崎 実千代 様 |
| 石河 節子 様 | (タイヘイ)遠藤 様 |
| 下里 光雄 様 | 高田 武義 様 |
| 小岩井商事 様 | 長谷川トキ子 様 |
| 壇原 弘 様 | NPO法人ネコネット |
| 石井 照明 様 | (稲葉 淑江 様) |
| | 青野 光男 様 |

☆そのほか匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。

ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて頂いております。どうぞご理解の程をお願いします。

【お願いします!】潮騒JTCでは使わなくなった中古のパソコン、中古の車いす、中古自転車などの献品を求めています。回復活動や日々の生活に必要なので、ご協力ください。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱56号

〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田

〒311-2113 茨城県鉾田市上播木1113-39

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

「そんなことで本当にお酒をやめることができると思っているんですか?」。ある入寮者が退寮後に起こしたアルコールに絡む警察官への暴行、公務執行妨害事件の公判。栗原施設長が情状証人として法廷に立つので傍聴する機会を得た。被告人質問の際、裁判を担当する若い女性裁判官の語気は強く、これまでとは明らかに違って響いた。「あなたはだんだん悪くなってますよ。刑務所で病気は良くならないでしょう。どうしたら本当にやめられると考えてるの?」。薬物やアルコールが絡む刑事裁判では型通りの「反省弁護・反省裁判」で終わるケースがとても多い。でも、この女性裁判官は明らかに依存症について理解を深めていた。まだまだ自覚の弱い被告人に対する言葉の厳しさの裏側に、心から更生を期待する温情ある気持ちがうかがえた。裁判官だって人間だ。刑務所を何度も往復する多くの依存症の被告たちを見て来て、空しくならないはずはない。こうした現実的な判断ができる裁判官が増えてほしいと願う。(イチ)

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
東京都世田谷区砧六—二六—二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
(会費を含む) 定価一〇〇円

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。